

性的問題行動を示す発達障害の青少年と保護者向け ySOTSEC-ID 支援 ー発達支援と臨床的プログラムの開発ー

1. 研究の目的

(1) 「ySOTSEC-ID “Keep Safe”」日本版マニュアルプログラムのモデル実施と効果測定

①本研究は、性的問題行動を示す知的障害・発達障害のある青年期の人々に対する効果的な発達の・臨床的支援方法を研究することを目的とし、イギリスで開発された「性的問題行動（HSB）を示す知的障害・発達障害のある青少年と保護者向けのグループ治療プログラム ySOTSEC-ID “Keep Safe”」に注目した。

ySOTSEC-ID “Keep Safe”（以下、“Keep Safe” とする）とは、有害な性行動（HSB）をとる知的障害のある青少年（CYP）の現場に関わる実践者と研究者が開発したものである。成人向けの支援の中で対象者の相当数がその不適切な性行動や性犯罪行為が青少年期に始まっていることに気づき、思春期・青年期への発達の支援や臨床的アプローチが必要であることが指摘されており、青少年への対応の重要性が指摘されているにも関わらず、彼等に対するサービスはわずかであり、調査研究も少ない。

②そこで筆者らは、“Keep Safe”Project 代表のロウィーナ・ロシター博士 (Rowena Rossiter) と連携して資料を整え共同研究を行うこととした。日本においても活用できる「性的問題行動を示す知的障害・発達障害のある青少年とその保護者への支援プログラム」日本版マニュアルを検討し、日本に合わせたプログラム内容の編集や適切な教材の作成を行うこととした。

(2) “Keep Safe” 日本版のモデル実践と効果測定

① “Keep Safe” 日本版の妥当性を検討するために、モデル実践を行うこととした。モデル実践を実施する前に、対象者の障害特性、リスクアセスメント、触法・非行分析を行うこととし、検査バッテリーを検討した。

② “Keep Safe” 日本版のセッション実施を確定するために、モデルセッションのプログラム構成および実施方法を検討することとした。モデルセッションでは、どのような効果を得ることができるか、エビデンスのある予防的・発達支援の取り組みとすることとした。

これらにより、性的問題行動を示す知的障害を含む発達障害のある青少年とその家族に対して、有効な発達のおよび臨床的支援を提供することを目的とした。

2. 研究の計画

(1) “Keep Safe” 日本版マニュアルの教材作成と妥当性の検討

① “Keep Safe” イギリス版マニュアルの翻訳研究協力チーム12名を編成し（大学研究者の他、少年院教官、特別支援学校教員、弁護士、児童相談所心理士など）、和訳とともにマニュアルに使用される認知行動療法に関する事例や知的障害・発達障害のある人向けに作成された視覚的教材が日本においても妥当であるか検討を行うこととした。

② “Keep Safe” 日本版マニュアルで使用するのに妥当である事例を作成し、日本版の文化に合わせたストーリーやアニメ等の視覚的教材が妥当であるかを検討した。

(2) “Keep Safe” 日本版のモデル実践と効果測定

① “Keep Safe” 日本版マニュアルのプログラム効果を測定するために、A, B, C, D地区の4地区においてモデル実践を行った。プログラム本体は週1回～隔週1回、2時間、全18回、23回、38回のセッションで行うこととした。主要セッションの選択と焦点化を事前に検討しプログラムを実施した。

②事前にリスクアセスメント、知的能力、自閉スペクトラム症の特徴把握、環境状況のアセスメント等を行った。対象者は、知的障害・発達障害のある青年と成人、合計13人であった。年齢は12歳～40歳代、知的能力はIQ50台～80台、13人とも自閉スペクトラム症の特徴を有し、1人はADHD特徴が顕著であった。13人中12人はほぼ全セッションに参加した。

3. 研究の成果

(1) “Keep Safe” 日本版マニュアルの作成と視覚的教材の妥当性の検討

知的障害・発達障害のある青少年とその家族に向けた“Keep Safe”の日本版マニュアル（全365ページ）で作成したストーリーおよび視覚教材が妥当であるかを検討した。

① “Keep Safe”日本版マニュアルの目的は次の2つに焦点を当てた。

A；ウェルビーイングの向上（ニーズを、社会に適応した方法で満たす）

B；再犯に至るリスクの低下（ニーズを、性加害や他の不適切な方法で満たさない）

② “Keep Safe”日本版マニュアルのモジュール構成（当事者6モジュール38セッション、保護者モジュール7：16セッション）と主要教材は2019年度に作成したプログラムで妥当であることがわかった。特に、日本の思春期・青年期の当事者に合わせたストーリーやアニメも合わせて作成したが、ストーリーは、対象者のトラブル特性や認知特性、経験特性に合わせて、プログラムを実施する支援者チームによってアレンジして作成することが効果的であることが明らかになった。

(2) “Keep Safe”日本版のモデル実践と事前事後のアセスメントの検討

“Keep Safe”日本版のプログラム内容の妥当性を検証するために、全国の4か所でモデル実践を行った。A地区グループは児童相談所と知的障害児支援施設が把握する性問題行動を有する当事者4人、B地区グループは発達障害者支援センターがコアになって把握していた性問題行動を有する当事者3人が対象であった。C地区グループは市基幹相談支援センターと地域生活定着支援センター、相談支援事業所のスタッフがチームを組んで実施した。D地区は特別支援学校高等部の生徒を対象に実施した。生活年齢は12歳～40歳代、知的能力はほぼ軽度であり、認知行動療法が求める情報の共有やコミュニケーションを取ることが可能であった。リスクアセスメントはARMIDILO-S（The Assessment of Risk and Manageability for Individuals with Developmental and Intellectual Limitations who Offend Sexually）により行った。

事前事後のアセスメントバッテリーは“Keep Safe” Group 治療の適合性スクリーニングテスト、静的リスクアセスメント Static99、動的リスクアセスメント ARMIDILO-S、ERQ-CA：感情コントロール尺度、SDQ：強みと弱み尺度、ENDCORE：ソーシャルスキル尺度、時間的展望尺度、MES：共感尺度、POMS（Profile of Mood States）：気分の尺度 35項目の短縮版であった。

事前のアセスメントは低リスク4人、中リスク6人、高リスク2人であったが、セッション後はいずれも事前のリスクよりリスクが低下していた。特に顕著な変化は「監督の順守」および「グッドウェイ、バッドウェイの理解」であり、生活ルールを守り他者に共感する行動や、自分に不利な事態であっても事前に身近な支援者に相談し解決しようとする姿勢が見られていた。最終的な質的分析においてもそれぞれの対象者には効果が明らかであった。

4. 研究の反省・考察

(1) “Keep Safe”日本版マニュアル視覚的教材の検討および正規インストラクター養成実施

① “Keep Safe”日本版マニュアルの作成と視覚的教材の検討は、おおむね目的に達した。知的障害・発達障害のある思春期青年期の当事者に合わせ、理解しやすいような視覚的教材や演習方法などを導入し、より効果的な認知行動療法になるようプログラムを改良した。

②日本語版マニュアルの検討と同時に、“Keep Safe”セッションを実施するインストラクター養成を行った。理論的研修を2日間、対面とオンライン研修にて行った。全国5か所で順調に実施でき、全国で120人の正規インストラクターが養成された。インスト研修における演習方法も効果的な方法を作成することができた。

(2) “Keep Safe”日本版の社会実装にむけた研究の開始

本年度に本プログラム全セッション38回をC地区で実施し、知的障害・発達障害のある性問題行動や性加害行為を起こした本人たちにむけエビデンスベースでのプログラムであることが確認できた。セッションを実施するインストラクター養成も順調に進み、全国で120人の正規インストラクターが養成され、約10人がチームを組んで実施することが有効な方法であることが明らかになった。事前事後のアセスメントバッテリーは、ARMIDILO-S、ERQ-CA：感情コントロール尺度、SDQ：強みと弱み尺度、ENDCORE：ソーシャルスキル尺度、時間的展望尺度、MES：共感尺度、POMS（Profile of Mood States）：気分の尺度 35項目の短縮版で行うことが妥当であることを確認した。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

- ①堀江まゆみ（2022）性問題行動を示す知的障害・発達障害の青少年と保護者向けの Keep Safe 実践. 吉川徹（編），こころの科学 Vol 223 (pp. 67-72). 日本，日本評論社
- ②堀江まゆみ（2022）自立活動・職業指導で取り組む性問題行動に向けた「KeepSafe」プログラム. 実践みんなの特別支援教育、7月号、学研

(2) 口頭発表

- ①堀江まゆみ（2021）性的問題行動を示す知的障害・発達障害の青少年と保護者向け KeepSafe プログラム. 自閉スペクトラム症と性加害を考えるー予防と再教育におけるソーシャルストーリーTMの可能性ー. 自閉スペクトラム学会、自主シンポジウム
- ②堀江まゆみ他（2022）性問題行動を示す知的障害・発達障害生徒へのKeepSafe実践ー特別支援学校の自立活動・職業指導への導入と効果ー. 日本特殊教育学会第60回大会自主シンポジウム（エントリー中）

(3) 出版物

なし